

1984年出土の木簡

奈良・奈良女子大学構内遺跡

- | | | |
|------|------------------------|---|
| 3 | 2 | 1 |
| 所在地 | 奈良市北魚屋西町 | |
| 調査期間 | 一九八四年（昭59）七月～八月 | |
| 発掘機関 | 奈良女子大学埋蔵文化財発掘調査会・奈良国立文 | |

からは奈良時代後半から平安時代初頭にかけての掘立柱建物群が検出されたが、上層では一二世紀末に埋められたと考えられる上縁径三・三m、深さ三m以上の大きな井戸を中心に、柵や規模の大きな掘立柱建物が配されていたことが明らかになった。木簡はこの大きな井戸から土器や多数の木製品とともに出土したものである。

- | | | |
|----------|-------|-----------|
| 6 | 5 | 4 |
| 遺跡の年代 | 遺跡の種類 | 調査担当者 |
| 八世紀～一九世紀 | 都城跡 | 坪之内徹・岡田英男 |

奈良女子大学構内遺跡は、平城京左京一条六坊と七坊にまたがる。遺跡及び木簡出土遺構の概要

奈良時代以降も宿院御所や

奈良奉行所をその中に含み、現代に至るまで続いている

都市遺跡である。校舎建設

に伴う発掘調査は過去三沙にわたって行われているが、

当年度の調査は構内西南部の左京二条六坊十二坪であ

たる地点で行われた。下層



- 9 関係文献
奈良女子大学『奈良女子大学構内遺跡発掘調査概報Ⅲ』(一九八五
(坪之内徹)